

学校だより



# 平沼

横浜市立平沼小学校

平成31年3月1日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

## ゆめを育む学校

校長 長谷川 絹子

子どもたちが はこんでいるのは ランドセル  
ランドセルが はこんでいるのは 教科書とゆめ  
みんないっぱい はこんでいる

2年 山下 明夏

国語の学習として、学校生活で見つけたことや感じたことを詩に表しました。毎日、いっぱいの『ゆめ』と一緒に登校しているという山下さんの想いやその様子が目に浮かび、心が温かくなるとともに、学校が担っている責任に身が引き締まる思いになりました。

2月25日には、5・6年生が「アフリカとの一校一国運動」（2019年アフリカ開発会議開催に向けての活動）の取組として、青年海外協力協会（JOCA）と実際に青年海外協力隊としてナミビアで過ごされた2名の講師の方のお話を聞かせていただくことができました。青年海外協力協会の方からの開発途上国（およそ150/196か国）やそれらの国が日本と密接に関係していることなどについてのお話や、協力隊員としてナミビアの学校で2年間、小学生に算数と理科を教えていらっしゃった方のお話には、子どもたちはとても熱心に聞き入っていました。首都は意外と都会、人口密度は3人/1km<sup>2</sup>、人間より動物のほうが多い、川を1分泳ぐと隣国に行ける、12（実際は約80）の民族から成り立っていることなど日本との大きな違いに驚いていました。そして、水がない村では、「水を汲みに行くか、学校に行くか、あなたはどちらを選びますか？」という質問に、生命や生活にかかわる「水を汲みに行く」と選択せざるをえない実情を知りました。毎日遠くまで水を汲みに行く、川で魚を捕ったり畑を作ったりして食料を得ることに迫られている子どもたちの日常生活を平沼の子どもたちは、どう感じたのでしょうか。そして、最後の「あなたにとって大切なものは何ですか？」という問いに平沼の子どもたちの答えは「家族」「命」「お金」「ゲーム」…、それに対してナミビアの子どもたちの多くは「学校！」。学校で知識や力を高めていくこと、仲間と一緒に遊び語り合うことの楽しさや価値を突き付けられ、子どもたちにとって衝撃的でした。学校にはゆめがあふれているのです。

### 「平成最後の U4 10才会」のスピーチ

わたしのしょう来のゆめは、学校の先生になることです。なぜなら、たくさんの子どもの成長させてあげられるからです。なので、最近は字をきれいに書くことや、自分のつくえの上も必ず整理するようにしています。けれど、今はえんぴつを正しいもち方でもつときれいに字が書けないので、ゆっくりと丁寧に書くことをもっとしていきたいです。（後半略） 原 とわ

### 「今 ぼくは 私は」

6年間で一番成長したことは発言数が増えたことです。（略） ぼくは年長のとき、発言をしたら笑われました。なので、そのときから発言することはひどく恥ずかしいことなのだと思い込んでいました。しかし、小学校に入学すると、学校の先生が朝会や授業などで、「発言することは大切ですよ。」と教えてくれました。ぼくはそのことがきっかけで、自分の意見を発言することは恥ずかしいことではなく、むしろ誇らしいことであるということなのかなと思いました。（後半略） 又吉 遥斗

一人一人の子どもたちのゆめを育む平沼小学校の教育活動であったことを切に願いながら一年間を終えようとしています。保護者、地域の皆様にご理解とたくさんのご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

～大切なお知らせ～

4月より登校時間が8:00～8:15に変わります。安全に気をつけて登校してください。